

I 研究主題

未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業づくりⅢ — 学びの価値を見いだす授業デザインを通して —

II 研究の目的

1 研究主題設定の理由

子供が社会の担い手として活躍する頃は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により、これまで以上に将来の変化を予測することが困難な時代であることが予想される。私たちの願いは、このような複雑で予測困難な時代であっても、社会の変化に主体的に関わり、多様な他者と協働しながら課題を解決したり、新たな価値を創造したりして、よりよい社会と幸福な人生を創っていく子供、つまり、以下のような子供を育成することである。

学校教育目標「未来の創り手となる生きる力を備えた山下の子の育成」

学校教育目標の実現に向け、新しい時代に生きる子供に求められる資質・能力を身に付けさせたいと考え、平成30年度より「未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業づくり」という研究主題の下、授業実践に取り組むことにした。

2 研究の歩み

(1) 1・2年次の研究の内容

まず、「未来の創り手に求められる資質・能力」を次のように整理した（表1）。

表1 【「未来の創り手に求められる資質・能力」】

知識及び技能 生きて働く	知識及び技能	各教科等に関する知識及び技能
思考力、判断力、表現力等 未知の状況にも対応できる	論理的思考力	事物を「解釈し、把握する。」「整理・分析する。」「比較・分類・関係付け、推論する。」「多面的・多角的に考える。」など論理的に思考する力
	判断・形成力	情報を精査して判断し、自分の考えを形成する力
	表現力	形成した自分の考えを文章や発話、動作等で表現する力
	創造力	新たに学んだ知識及び技能と既得の知識及び技能を統合したり構造化したりして、よりよい解決方法や新たな考えを創り出す力
学びに向かう力、人間性等 学びを人生や社会に生かそうとする	問題発見力	学習材等の出会いから問題や目標を見いだす力
	見通す力	既習内容から予想や方法を考えたり選択したりして、見通しをもつ力
	協働力	異なる多様な他者との対話を通して、自分の考えを構築しながら他者と共に納得解や最適解を創り出していく力
	振り返る力	自分の思考の過程や学び方を振り返り、自己の成長に自信をもち、学習に意味を見いだす力

次に、これらの資質・能力を身に付けさせるために、平成30年度、令和元年度は、新学習指導要領に示された教育課程や各教科等の授業改善の視点「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）、「何を学ぶか」（学習内容の具体化）、「どのように学ぶか」（授業における教師の手立て）を踏まえた研究に取り組んできた（次頁図1）。

【研究主題】 未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業づくり		
【1年次副主題】主体的・対話的で深い学びの実現を通して		
研究内容1 「育成を目指す資質・能力」	研究内容2 「学習内容の具体化」	研究内容3 「授業における教師の手立て」
新学習指導要領に示された三つの柱「知識及び技能の習得」、「思考力、判断力、表現力等の育成」、「学びに向かう力、人間性等の涵養」を目指した。	資質・能力の育成を目指した単元、指導計画の具体化を図り、学習課題と教材の工夫を行った。	解決方法の見通しと学びの振り返り、学習形態や思考共有ツール、働かせたい見方・考え方を促す発問等の主体的・対話的で深い学びを実現するための手立てを行った。
【2年次副主題】知識の理解の質を高める学びを通して		
研究内容1 「育成を目指す資質・能力」	研究内容2 「学習内容の具体化」	研究内容3 「授業における教師の手立て」
新学習指導要領に示された三つの柱を基に、知識及び技能、論理的思考力、判断・形成力、表現力、創造力、問題発見力、見通す力、協働力、振り返る力の九つに資質・能力を整理した。	新たに学んだ知識及び技能と既得の知識及び技能が関連付けられ、知識の理解の質が高まっていくような指導計画モデルを作成し、各教科等で授業を行った。	自分のめあてをもたせたり、学び合いを活性化させたり、学びを振り返らせ、学びを価値付けさせたりする等の知識の理解の質を高める手立てを行った。

図1 【1・2年次の研究の内容】

(2) 1・2年次の研究の成果

- 「未来の創り手に求められる資質・能力」を九つに整理し、各教科等で重点化を図ったことで、授業改善の視点に生かすことができた。 【研究内容1】
- 指導計画作成の際、新たに学ぶ知識及び技能と既得の知識及び技能の関連性を明らかにすることができた。 【研究内容2】
- 自分のめあてをもたせたり、学び合いの活性化を図ったり、子供の学びを価値付けたりする手立てを工夫したことで、知識の理解の質を高め、「未来の創り手に求められる資質・能力」を身に付けた子供の姿が見られた。 【研究内容3】

(3) 2年次の研究の課題

「学習課題を自分事として捉え、『自分の問い』（学習に対する自分の思いや願い、憧れ、解決したい自分のめあてや問題の総称）を立てる。」（問題解決への「必要性」）、「『自分の問い』を基に、自ら解決方法を考えて追究する。」（学習への「自律性」）、「『自分の問い』の解決に向け、他者や学習材と深く関わって学び合う。」（他者や学習材との「関係性」）、「『自分の問い』を解決する過程で自己の成長を実感し、学習に意味を見いだす。」（学びの「有用性」）など、「自分の問い」を立てて主体的に問題解決に取り組み、四つの視点から学びの価値を見いだす子供の姿は、あまり見られなかった。それは、以下のような教師の手立てが不十分であったことが原因であると考えられる。

- 学びの価値を見いだし、「未来の創り手に求められる資質・能力」を身に付けた子供の姿の想定
- 子供が学びの価値を見いだす学習内容の具体化
- 「自分の問い」を立て、自ら方法等を考えて解決を試みたり、他者や学習材と深く関わったりして、自己の成長を実感し、学習の意味を見いだすなど、子供が学びの価値を見いだす教師の手立て

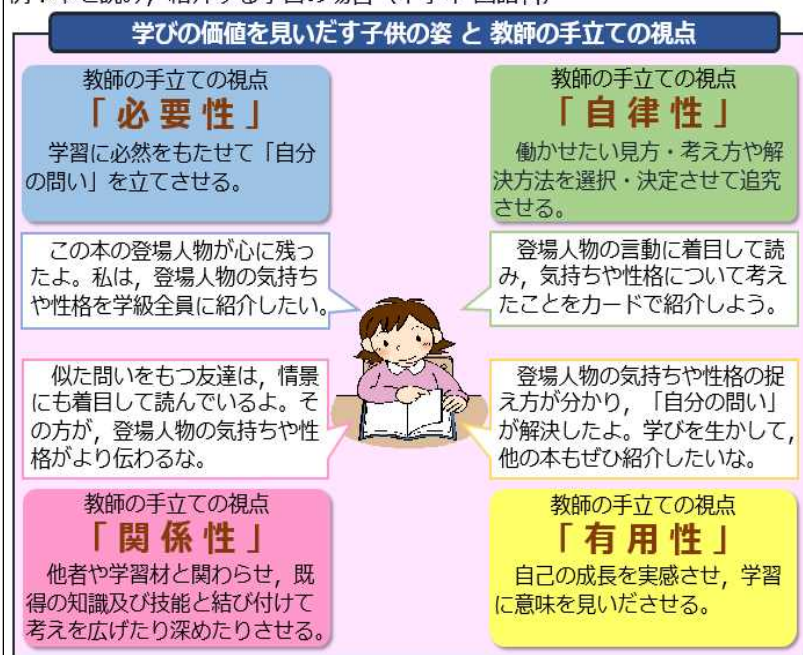
3 3年次の研究の方向

2年次の研究の課題から、「学びに向かう力」をより涵養するための視点「必要性」, 「自律性」, 「関係性」, 「有用性」に着目した鹿児島県総合教育センターの調査研究(令和元年度)を基に, 子供が「自分の問い」を立てて主体的に問題解決に取り組み, 学びの価値を見いだす授業をデザインすれば, 「未来の創り手に求められる資質・能力」を更に身に付けていくと私たちは考え, 3年次の研究主題と副研究主題を以下のように設定した。

未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業づくりⅢ — 学びの価値を見いだす授業デザインを通して —

1・2年次の実践を基に, 学びの価値を見いだす子供の姿とは, 「自分の問い」を立て, その解決に向けて方法等を選択・決定して追究し, 他者や学習材と深く関わり, 自己の成長を実感し, 学習に意味を見いだす姿だと捉えた。つまり, 子供が学びの価値を見いだす授業にするためには, 問題解決への「必要性」, 学習への「自律性」, 他者や学習材との「関係性」を高め, 学びの「有用性」を実感させるといった四つの視点による教師の手立が必要である(図2)。

例: 本を読み, 紹介する学習の場合(中学年 国語科)



このことから, 「学びの価値を見いだす授業デザイン」とは, 以下のように単元及び1単位時間の授業をデザインすることであると考える。

子供が「未来の創り手に求められる資質・能力」を身に付けるために, 「自分の問い」を立てるなど問題解決への「必要性」を高め, その解決に向けて追究していく過程で, 学習への「自律性」と他者や学習材との「関係性」を高め, 学びの「有用性」を実感できるように授業をデザインすること

「学びの価値を見いだす授業デザイン」を踏まえ, 「何ができるようになるか」, 「何を学ぶか」, 「どのように学ぶか」といった三つの研究内容を設定し, 授業実践に取り組むことにした。

【研究内容1】「育成を目指す資質・能力の再重点化」(何ができるようになるか)

【研究内容2】「学びの価値を見いだす学習内容の具体化」(何を学ぶか)

【研究内容3】「学びの価値を見いだす教師の手立て」(どのように学ぶか)

※ 研究の実際については, 「研究誌の公開について」を御覧ください。